

盛岡白百合学園高教諭で、全国から教諭たちが集まって東京都で開かれた通産、文部両省主催事業の報告会で発表。昨年夏、ポートで北上川を下りながら衛星携帯電話でホームページにリアルタイム情報発信した試みを、ライフジャケット



ットに長靴の「臨場感あふれる」姿で報告し、参加者約一千百人を驚かせた。

会場で「岩手はコンピュータ活用の先進県」と再認識。「パソコンは道具。使いこなすことが目的」という時代は終わった。問題は「どう活用するか」と指摘する。

川下りとインターネット、それに体験的な情報教育。教室でマウスやキーボードを操作するとい

う一般的なイメージとはほど遠い取り組みは、古里・宮城県の海で過ごした少年時代に培った。近所の海岸を端から端まで探検。二度人命救助し、海と用水路、女湯

スキーに引かれ、修士論文を仕上げた。スキーに引かれ、修士論文を仕上げたために利用したのは既成文化に反発する米国西海岸の対抗文化の産物・マッキントッシュのコンピュータだ。



研究文学院大学院大東研
修了。昭和63年盛岡平
百百合学園高教諭、平成10年
岩手大非常勤講師を兼務。
盛岡市東松園3の16の7。
宮城県鳴瀬町生まれ、37歳。

新百校プロジェクト成果発表会に参加した

安倍 富士男さん

で計三度おぼれたこと経験を誇る。反骨の半生。学校に配備する情報機器の選定などで行政とわたりあった場面は数知れない。大学院生のとき反権力の言語学者チヨム

では妻の恭子さん(35)と男女二人ずつの子どもの六人暮らし。《自己診断》と云んやるタイ

(黒田大介記者)

「インターネットで世界を知れば、自分が置かれている状況や世の中の矛盾が見える。コンピューターは人が主体的に生きるための道具」が持論だ。

進取独創、納得できるまで物事を突き詰めるこだわりの派。県内の大手住宅会社を約一年かけて歩き回り、吟味して建てた家